

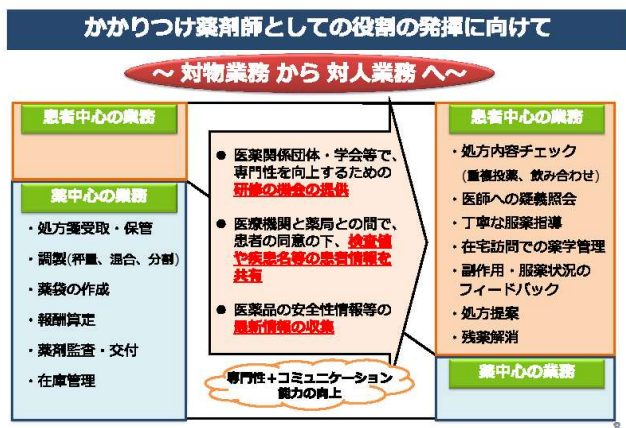
## 調剤ロボット導入で薬剤師の業務改革！

### コミュニケーション時間の創出と補助金活用の成功事例

株式会社メディリンク（本社：相模原市南区）は、相模原市に2店舗、大和市に1店舗、計3店舗の調剤薬局を運営する地元事業者。今回、相模原市「産業用ロボット導入補助金」を活用し、調剤ロボットを導入。これにより、薬剤師の業務効率化と患者対応の質の向上を実現しました。今回、散薬調剤ロボットを導入した「アリス薬局 相模大野店」を訪問し、同社代表取締役社長の大谷真弘氏と店舗で働く薬剤師の皆さんに、その変化についてお話を伺いました。

#### 薬局を取り巻く環境変化～対物業務から対人業務へ

2015年10月、厚生労働省が「患者のための薬局ビジョン」を発表し、調剤薬局に求められる役割が変化しました。従来の「対物業務」（薬の調剤や管理）から、「対人業務」（患者とのコミュニケーションやサポート）へとシフトすることが求められています。



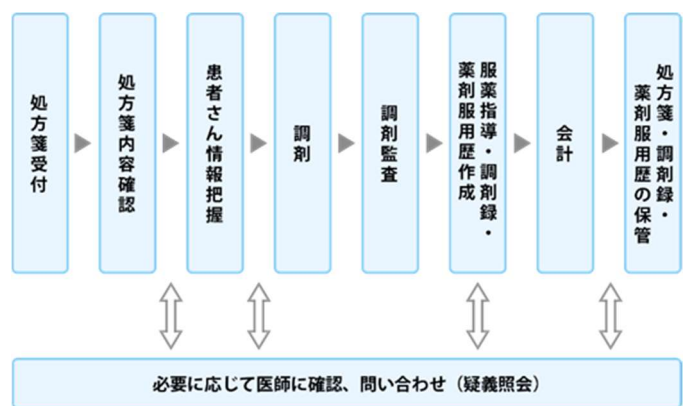
(出典) 患者のための薬局ビジョン概要 (厚生労働省)

この変化に対応するため、調剤薬局では、調剤ロボットやICTツールを活用し、調剤業務の効率化を図る動きが加速しています。

薬剤師が患者と向き合う時間を確保し、より質の高い医療サービスを提供することが求められているのです。

#### そもそも調剤業務とは？

薬剤師は、処方箋を受け取った後、処方内容を確認し、必要な情報を患者から聞き取ります。その後、過去の服薬歴を確認し、必要に応じて医師に確認（疑義照会）を行ったうえで調剤を開始します。調剤後は、薬や説明書の内容に誤りがないかを再確認し、患者に正しい服用方法を説明して薬を渡します。



(出典) おしえて！薬剤師さん

どうしてお薬をもらうのに時間がかかるの？

東邦ホールディングス(株) (<https://s.tohohd.co.jp/interview/>)

散薬（粉薬）が出てくるまでの流れは次のようになります。

- ① 処方箋監査（処方内容の確認、疑義照会）
- ② 薬剤の選定・ピッキング
- ③ 用量の正確な計量
- ④ 混合（ムラなく均一に分散・混合する作業）
- ⑤ 分包（服用する分量ずつつける作業）
- ⑥ ラベル貼付（内容物や服用方法を明記）
- ⑦ 最終監査

従来は、これら全ての工程を薬剤師が機械や器具を用いながら、ひとつひとつ手作業で行って来ました。専門性と正確性が求められ、熟練も必要な負担の大きい業務でありました。

## 患者の待ち時間を短縮！ロボット導入の効果

薬剤師 A 氏「患者さんの多くは体調が悪く、少しでも早く薬を受け取って帰りたいと思っています。私たちも、その気持ちに応えるため、迅速な調剤を心がけています。」

薬剤師 B 氏「特に感染症の流行期は、待合室での滞在時間を短縮することが、感染リスクの低減にもつながります。」

これらの課題を解決するため、同社はユヤマ社製の散薬調剤ロボット「MiniDimeRo（ミニディメロ）」を導入。処方データを入力するだけで、薬剤の選択、計量、混合、分包までを全自動で行う。（先述②～⑥）

ロボットの活用により、人の作業で起こりうる薬剤の取り間違いや秤量間違いを防ぐことができ、映像やデータが残ることでトレーサビリティも実現できる環境となりました。また、すでに導入済みのシロップ調剤機を同時に活用することで、散薬とシロップ剤を並行して調剤することが可能となり、作業効率が大幅に向上しました。



▲取材に応じてくれた薬剤師の皆さん



▲散薬調剤ロボット

（右：アームが散薬カセットを取り出している様子）

## コミュニケーション時間創出に貢献

薬剤師 A 氏「気持ちに余裕が生まれて、これまで以上に処方箋監査に時間を割くことができるようになりました。」\_\_導入前は、処方箋監査に時間がかかると、調剤をする際に焦ってしまうことがあったという。しかし、今では「このあと（処方箋監査のあと）は、ロボットが自動でやってくれる。」という安心感が、患者とのコミュニケーション時間の創出に貢献している。

薬剤師 B 氏「薬の受け渡しについても、患者さんの表情や様子を観察する余裕が生まれました。“伝え方”を工夫することに時間を割くことができるようになりました。」\_\_小児患者には上手な飲み方を伝えたり、成人患者には副作用なども正確に伝える。この伝え方次第で、患者が薬に恐怖心を抱き、飲まなくなってしまうこともあるため、安心して服薬できるように工夫をしているという。

大谷社長「流行期などによく処方される薬について、薬剤師は何千、何万回と説明している内容であったとしても、目の前にいる患者さんにとっては、はじめて聞く内容です。我々の気持ちに余裕があることで、しっかりご説明をすることができます。」

## 柔軟な発想で補助金活用

「相模原市 産業用ロボット導入補助金」を活用し、導入コストを抑えながらロボットを導入しました。大谷社長「補助金などの情報は一通り探索し、市の補助金について知りました。ロボットというと工場で活躍しているイメージでしたが、今回、製品名に“ロボット”とついていたので、問い合わせたところ、柔軟に対応してもらえました。」



▲（左）相模原市担当職員 （右）大谷社長

相模原市の産業支援・雇用対策課担当者は、「工場などで稼働する産業用ロボットももちろん対象ですが、今回のように製造業以外の事業者の方にもご活用いただける可能性のある補助金です。」と語る。

### 幅広い市内事業者の生産性向上のために

相模原市では、2015年より産業用ロボット導入補助金制度を設け、市内においてロボット等を導入し、生産性の向上を図る事業者を支援しています。

補助金を活用し導入ハードルを下げることで、今回のように調剤業務の効率化だけでなく薬剤師の働き方を変え、患者満足度の向上に貢献することができます。

「自分の会社でも活用できるのでは？」と悩んでいる方は、まずはお気軽に相模原市の産業支援・雇用対策課にご相談ください。



### 企業プロフィール

企業名：株式会社メディリンク  
所在地：アリス薬局（相模原市南区南台 5-10-30）  
アリス薬局 相模大野店  
（相模原市南区相模大野 8-8-16）  
まごころ薬局（大和市中央林間 5-4-1）  
代表者：代表取締役 大谷 真弘  
事業内容：調剤薬局  
URL：<https://www.alice-pharmacy.com/>

※ 相模原市「令和5年度 産業用ロボット導入補助金」  
活用企業